

平成 27 年度 第 4 回

白石町まち・ひと・しごと創生推進会議要録

日時：平成 27 年 10 月 28 日（水）9：30～

場所：楽習館 2 階研修室 1

■会長（副町長）あいさつ

秋らしい気候となってきた。畑では、マルチビニール張りを行って、玉ねぎの植え付け作業が始まろうとしている。

皆様方にはお忙しい中、第 4 回まち・ひと・しごと創生推進会議に出席していただき、ありがとうございます。

今回の会議内容で素案をまとめることになっており、本日での協議が最後になる。

よろしく願います。

■白石町人口ビジョンの説明

前回より変更があったところを説明する。

p 9 表 3 の江北町からの転入について 2013 年と 2014 年の数値を変更した。

p 13 合計特殊出生率について前回 1995 年以降の数値を提示していたが、1983 年まで遡って提示している。

p 41 表 10、表 11 を追加している、表 10 は出生率 1.6 と、2040 年には 1.8、2060 年には、2.0 と段階的に引き上げた場合ということで整理した。表 11 は、社会増減について、どれだけ効果があるかを示している。p 42 の表で社人研と独自推計の差を提示しているが、施策によって、どれだけ効果が出たかを示している。

※人口ビジョンについての質疑応答なし

■総合戦略の素案（案）の説明

前回いただいたご意見をもとに修正している。

まず、別紙1は、総合戦略の書き方を提示している。総合戦略は、施策を提示することになる。例えば、がばいよかとか発信事業について今後の5年間の事業を示している。前回ご意見をいただいた、ねぎ坊主のアンテナやステッカーなどは、施策の中で詳細にやっていく事業になる。この内容を提示してしまうとそれしかできないなど縛られてしまうため記載はしない。その他ラジオなどはっきり決まったわけではないが、点線の中にある詳しい事業は記載しないため、ご了承いただきたい。

朱書きは前回と変わった部分である。

検証、改善、改訂の部分で、役場だけでなく、町民の方で構成される推進会議での意見を取り込んでPDCAサイクルで繰り返し検証等を行っていく。この計画期間は、今年度も含めて5年間となっていることから、計画期間途中でも、効果的な事業があれば、随時変更していく。今後は、周辺の市町と連携して何か出来ないかという話も出てくる。将来、コンパクトシティなどのことも考えていかなければならない。

なお、今回は、アイデア出しではなく、議論をしていただくため、会議形式の席としている。

■基本目標①の説明

3 新しいことへ挑戦する人への積極支援の（1）白石町創業者支援制度について、起業される方への支援を行う。また、（2）儲かる農産物の開発では、佐賀農業高校などと結びつき、連携しながら取り組むことにする。町がやるのではなく、新しいことへ挑戦する人のための支援である。

（4）商業者などへの支援は、有明町でやっているような朝市などの支援を行っていく。また、新しいことをするための個人への支援となる。

人材育成は、昨日、佐賀大学より依頼があり、文部科学省公募の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」に採択された。そのため、（2）地元定着の促進として記載した。実際には、佐賀県出身で大学の進学で県内に残るのは2割くらいである。若者の流出を防ぐため、企業と連携あるいは、高校とも連携して、地元に着定する取り組みが何か出来ないかということで挙げている。

ふるさと学の推進については、前回意見のあった白石町の良さを知ってもらおうという取り組みで、実際、地元の人でも白石町についてよく知らないところもあるため、地元のことを知ってもらい、誇りを持たせUターンにつながるのではという意見を盛り込んだ。

■基本目標①協議内容

委員 農業の魅力を伝えた方がよい。わかりやすい事業もあるが、もっときっかけづくりとなるような取り組みやすい事業もあった方がよい。TPPの問題もあり、農業をやりにくいこともあるかも知れないが、他の産業と収入も変わらないなどPR活動もできればいいと思っている。後継ぎの方は、実際は他の仕事もしている方もいる。若い世代に農業をやってみたいと思う方にぜひ、農業の魅力を伝える事業が必要である。

事務局 体験フェアもやっていると思うが。

委員 地域内からでも行ってみないかと声をかけるような環境になってほしい。

委員 朝テレビで見ていると、漁業の盛んな町でイケメン漁師を紹介していた。若い漁師を売りにしてカレンダーを作っている。白石町でも農業で出来ないのか。イメージを変えることが大事である。

委員 女性の若い世代でも農業をしている人がいる。

事務局 青年部でカレンダー作成などの取り組みはないのか。

委員 青年部会などで議題に挙げて来年でも出来ないことはないが、資金がない。

会長 カレンダー作成は良い提案である。がばいよかとか発信事業で取り組んでいけないか。

委員 追加してほしいのは、若者に対しての支援について、現在、後継者がいなくてやめざるを得ない人が出てきつつあるため、離農の意向も多くある可能性もあるため、新規に農業をやる人たちがその人たちを継いでくれたらよい。

委員 農協女性部では商工会と連携して、お菓子を作れないかという話を毎回しているが、なかなか前には進まない。女性も活躍していただいた方がよい。農協とは話をしており、白石町でしか買えないものを作っていこうと考えている。農協だけでは難しいところもあり、商工会との連携が必要である。

事務局 この話は、しろいし農業塾で視野に入れている。

委員 新規で農業をやる人と、後継者がいなくて離農する人達への窓口が1つになるのか。

事務局 農業対策について、働き手がないところにはU I J ターンと結び合わせて労働を確保する必要がある。ただ、難しいのは、家族や親族と働き手との間で土地などの財産について問題が出てくる可能性がある。また、有機栽培や野菜中心の農業など離農者側と引き継ぐ側のマッチングもある。カレンダー作成については、例えば季節ごとに特産物を紹介しながら、農業者を紹介するという形もある。

委員 イケメンや美人などどこを基準に判断するのか。農業の将来を考えれば、本質のよさに着目してやった方がよい。遠回りであるが、正攻法でいくことの方が確実である。

委員 白石町には学校、大学や専門学校があまりない。若者はいったん、白石町から出て行くことになる。また、出て行った先で就職をして、地元に戻ってこなくなる。

事務局 その問題については、教育・研究機関の誘致と連携ということで、役場職員の間では、女子大誘致などのアイデアもあった。

委員 地元の若者が遠くに行ってしまうこともあり、福岡や周辺の町にも白石町のよさを伝えていければよい。

委員 (佐賀農業高校では) 年間 120 人の生徒が就職進学をするが、就職が 7 割、進学が 3 割である。就職 7 割のうち県内の就職は 7 割である。高校を卒業して、地域に残っている傾向はある。ただ、普通高校になると、大学に進学する割合が高くなる。普通高校では、日本を動かす人になれるという指導もあっているため、地元に残るということに関しては、難しいところもある。県内に残る人に奨学金を支給するのはいいことであると思う。例えば、佐賀大学医学部のように推薦枠で入学し、県内の病院で働くことを条件に奨学金を給付することはかなり有効だと思われる。

委員 地元の病院に借りた奨学金があるから、地元の病院に就職することにもなる。お金を借りているので、帰ってくるという気持ちにもなると思う。その積み重ねが大事である。

事務局 (3) 農業従事者確保対策は、白石町で農業を継いでくれるという考え方ではな

い。全国から来ていただけないか。その中から白石はいい町ということで住んでもらうのがよい。

委員 教育としては、就農しながら勉強ができる施設がほしい。また、有識者の先生を呼んで就農をしている方を対象に勉強会を開いてほしい。その中に、佐賀農業高校の生徒も参加してもらって、そこから、就農者と生徒とのつながりが生まれると思う。若い世代への勉強会もしていただきたい。

事務局 しろいし農業塾で土壌利用のやり方などの講習もある。生徒数が4人でもったいないため、活用してもいいかと思われる。大規模研究会をしているが、一般の人は参加していない。

委員 佐賀農業高校の若い人たちも参加してほしい。土地ならではの話もあるので、いい勉強になると思う。

事務局 先輩の意見が聞けるということで、若い人は研究熱心である。しろいし農業塾生に限定せずにやっていった方がよい。

委員 とにかく、全体的な勉強会がない。興味のある方でも来ていただきたい。なかなか今の研究会にUターンの農家は参加していない。

事務局 カレンダーの件は、がばいよかとか発信事業の中に含めていく。勉強会の話については、新規就農者及び農業後継者の育成・確保の中で項目をあげるなどこちらの方で検討することにする。あと、商工会と農協女性部、農協青年部などつながりは何もないのか。

委員 何もない状況である。

委員 団体どうしのつながりの話は、役員の方では企画しているようである。例えば、子ども見守り隊もある。

委員 これを機会に団体どうしのつながりを持てるようにしたい。因みに農協女性部は非農家も入っている。

委員 農協女性部にはどのくらい人がいるのか。

委員 女性部の人数は、白石町で 1,500 人である。入りたい方はみんな入っていただきたいということを今言っている。年代が高い方が多くなり、役のやり手が少なくなっている。

事務局 団体どうしのつながりの話は、どこかの項目に追加することを検討する。

委員 農業、産業などと連携がとりにくい。連携しやすいように町の方からマネジメントなど協力してもらいたい。だれかマネジメントをしていただく人がいないとばらばらになってしまう。

事務局 現在、事務局では団体の連携についての話は進んでいない。役場でできることがあれば予算を取って、橋渡しをやった方がよい。地域力が衰えてきているのは間違いない。基本目標 4 に分類されるが、地域づくり協議会という形をとることで地域力を維持していく。町の婦人会、農協女性部などを辞めるという動きもあるようなので。地域力を上げていく必要がある。

委員 介護団体や子育て団体、農業団体などがあるが、ばらばらである。

事務局 介護でも法律があり、食事のサービス等サービス内容が限られている。地域力がないと高齢者を見守るのは難しい。地域を活性化することが必要である。

委員 私は子育てサークルを立ち上げているが、サークル名を「はぐはぐ」とした。その名前を付けた理由は、地域で子どもたちを育ててほしいという意味がある。子育てに関して、いろいろと話をしていると、社会福祉協議会は、役場は、または、〇〇課はなど、みんな子どものことに携わっている方なのに、別々のことを言われる。色々な立場もあるかと思うので、ご意見が交錯する場を作らなければならないと思う。農協をはじめ色々な組織がいっぱいある。名前は聞いたことがあるが、実際にどういうことをされているかがわからない。私は阪神大震災を経験したので、誰がどこに住んでいるかなど、何かが起こった時に大事なことである。(子育てのことについて) 何かあったときにそれぞれ別々に地域のことを投げられると、どう頑張っていけばよいかかわからない。役場主体で各団体どうしが交流する機会を与えてくれば、それをきっかけに各団体の垣根は取れていく。この会議をきっかけに集まる機会を増やしていただきたい。今、子ども見守り隊があるというのを初めて知ったこともあり、各団体どうしが交流できる場作りが必要である。

- 委員 組織がいっぱいあり、役場はそれをマネジメントする。前回は話をしたが、民間ができる部分もあるはずであり、それについても役場がリーダーシップをとってくれないといけない。
- 委員 何かわからないことがあって、そこに聞けば何とかなるとなればよいが、どこに聞けばいいのかわからない場合が多い。
- 事務局 分野、分野はあるが何でも相談事について1箇所の場所に集めた方がよいということか。
- 委員 専門家はおられると思うし、一人に相談して全てを対応していただくということではないと思う。
- 委員 問題は、別々だが、いろいろな分野で専門家がいるはずである。子育てに関して言えば、もっと子どもに関することを中心に異なる考えがあることを認識していただき、社協や役場などが交流すべきである。ひとつの問題が起きた時に社協は社協で解決するのではなく、役場に問い合わせるなどをすれば、アイデアは出てくると思う。
- 委員 例えば、介護のようにケアマネージャーがいて、その人に関する指示を出す。また、その人の情報収集などを行う。そういう核となるところが町にあった方がよい。
- 委員 役場も組織改革が必要だが、3年、4年で異動する。浅く広く知った方が重宝されていた。各課に精通した人がいた方がよい。相談体制については前回話したとおりである。
- 会長 なるべく1箇所だけで対応できる体制を考えているが、1人が全部知っているわけではないため、何人かで対応させていただいているのが現実である。今出た項目は事務局でまとめさせていただく。

■基本目標②の説明

前回、レンタサイクルについては、不便なところを逆手にとってはどうかということで追加した。がばいよかとか発信事業はいろいろなバリエーションでやっていく。

■基本目標②協議内容

委 員 空き家の実態はどうなっているのか

事務局 2年前の調査で農家住宅、一般住宅を合わせて 221 戸となっている。

委 員 鹿島市の酒蔵どおりでも空き家が多い。水道、電気などが使えず、そこに入ってすぐに住める状態ではない。すぐには住めず、移住者の持ち出しが多いことが議論になっていた。

事務局 今ある空き家をすべて空き家バンクに登録するつもりはない。実際には、空き家の中では住めないものもある。鹿島市は不動産業者と現地を見て決めている。リフォーム助成は、登録の次の段階である。

委 員 都会からの移住者を受け入れる体制が整っていないため逃すこともある。移住者に負担のかからないようにすべきである。

委 員 空き家バンクはあるが、チャレンジショップの計画はないのか

事務局 次の段階ということになる。ここに書いているのは、借り上げてシェアハウスにするなどということになる。ただ、チャレンジショップは根本的な解決になっていないという意見もある。空き家もそうだが、受け入れて、実際に地域になじんでいただかないといけないところもある。

委 員 鹿島市の例もあったが、建物も古いし外観から見た感じは、入りがたいものがある。チャレンジショップという条件で、(使用料が) 1万円くらいというのは良かったが、チャレンジショップをする人は資金がない人たちで、店を開けない人たちである。チャレンジ出来るくらいに、中をきれいにしてもらって入りやすくしてもらえればいいと思う。

事務局 起業については、補助金を出してうまくいったためしがないという意見があるということをリノベーションスクールという講習会で話があった。補助金以外の橋渡しをするのが公共の役割であるという話があった。基本的に現段階で、支援や

助成という言葉でしか書ききれていない。マネジメントすることなどが、今からの行政の役割になってくるかと思う。

■基本目標③の説明

婚活サポートへの取り組みについて、サポーター中心の取り組みに内容を変更している。ブライダルプロジェクトやパパ向け子育て支援、家庭保育手当てや保育量の見直しなどについては、実効性について検討したところ、他の項目に含めることとした。

子育てに関するワンストップ相談体制については、学校教育や保健関係などを一本化することとしている。

公園施設の充実は、公園のモニターになってもらうなど、意見を取り入れて子どもが遊びやすい公園にしていく内容である。

■基本目標③協議内容

委員 公園充実の中に歌垣公園が入っていない。魅力あるものをということであれば、歌垣公園も入れるべき。

事務局 歌垣公園は基本目標2の歴史散策コースの中にいれている。道路整備と合わせて行うことになる。

委員 例えば、歌垣公園は駐車場が狭いという問題もある。

委員 歌垣公園に子どもを連れて行ったが、特に遊具については、滑り台も滑れないし、錆もあるので、逆に危ない。手入れをしていただければ、子どもたちも近寄りやすい。

事務局 歌垣公園整備について交流の拡大として位置づけた方がよいのか。子育ての面の方がよいのか。

委員 交流の場として整備を進めたほうがよい。

委員 交流の場として整備を進めたほうがよい。

委員 子育てというよりも、そこを整備していただければ、景色もいいし、空気もいいところなので、子どもだけでなく親も楽しめる。

委員 歌垣公園については、アスレチックなど山ならではの遊具があったらよい。トイレは水洗にしてほしい。子どもが怖くてトイレにいけない。水道もないのでピクニックをしても、手を洗う場所もない。ロッジなどもあるが、結局こちらから水を持っていかないといけない。

事務局 歌垣公園は3大歌垣公園といわれることもあり、観光資源である。それをもっとアピールしていきたいと思う。子育て支援として、白石中央公園を位置づけている。なお、歌垣公園のトイレは水洗化にする必要がある。

委員 歌垣フェスタもある。もともと男女の出会いの場として知られているところであり、歴史資源としても大事にしたい。

事務局 11月に佐賀県がゼクシイの協力を受けてバーベキューをするイベントがある。歌垣公園でそういうイベントができるようにした方がよい。そのため、イベントができるよう整備を行う必要がある。歌垣公園の件は、基本目標2のところに追加したい。

委員 公園の施設は、改修をする際に意見をまた募集するのか。

事務局 今考えているのは、ワークショップをすることになる。女性活躍の推進法にもあるが、例えば公共施設のトイレを取っても男女の面積が同じで、実際には、女性のトイレが並んでいるなど足りないといったことが多い。今後の公共整備には、女性ならではの意見を取り入れ、また、女性の視点を踏まえて整備を行っていく必要があると考えている。

■基本目標④の説明

各行政区や老人会などで、役員などなり手がいないことが問題となってきた。有明地域の消防団でも自主的な統合が見られる。

地域づくり協議会については、小学校区単位での設立を考えている。全国的には行われていて、視察等をしながら、白石町に合うように進めていく。

また、白石町は老年人口が多いが現役で頑張っているというご意見があった。定年後も地域で活躍してもらえるよう、きっかけづくりをするという項目を挙げている。シルバー人材センターの年間登録者数の実績値は100人に達しないくらいとなっているため、目標値として120人とした。

漁協青年部や農協青年部などの各種団体間のつながりの件は誰もが活躍できるまちづく

りの中に追加したいと考えている。

■基本目標④協議内容

委 員 目指すべき方向性のところで、地域づくりのしくみなど具体的イメージはあるのか。

事務局 仕組みなど具体的なことについては、今後検討していくことになる。PTA など各団体が全部集まった組織にしていく。町づくりに関するアンケートや町長と語る会などでしか住民の意見を聞く機会がないため、地域協議会を作って若者や女性に参加してもらいたい。例えば、地域づくり協議会で自分たちの地域の道路整備を要望してもらいたいということである。地域のことについて、自分たちで活動をしてもらうなどもやっていければと思う。共助という部分で各団体や人がつながってやっていければと思う。

委 員 住民が意見を言ったときにどれだけ反映されているのが具体的にわかりにくい。住民の声を反映するといわれても具体的に見えないといけない。言葉だけが先行していてもいけないのでは。

事務局 今の段階では構想であるが、財源的にも地域のためにしたいことなどには支援をしていって、地域づくり協議会の中での話し合いで、地域が一体となってくればよい。例えば、自分の前の道路を何とかしてほしいと役場に直接話をしても、個人の土地でもあるため難しいとなるが、地域づくり協議会の中で話し合いをしていただいて意見として挙げれば優先順位をつけて補修をできるようになる。役場はそのバックアップをやっていく。

委 員 私もそうだが、役場に頼っているところもあり、考えていかなければならない。

事務局 農業と人情の町ということで、地域のあり方についても戻さないといけない。

委 員 役場にはマネジメントをしてもらいたい。

事務局 団体どうしの付き合いがないといけない。そういうのを地域の中で取り上げてもらいたい。

委 員 昔は、役場の人と地域の人がよく集まって話をしていた。(役場に引きこもらず、)もっと近い存在であってほしい。

委員 私の周りでも、役場には近寄りがたいという意見がある。役場に来ると、自分が目当てとする課までいくのに何をしに来たのかという視線を感じることもある。挨拶もなく、じっと見られている感じもある。

会長 挨拶については、ハロープロジェクトで徹底してきたつもりであるが、申し訳ないと思っている。

委員 （地域づくり協議会の中で）皆さんが自立できるような大人の学校をつくってもらえればよい。

事務局 消滅可能性都市と言われていて、実際に消滅はしないと思うが、危機感を持ってやっていきたい。財源のこともあるが最優先にやっていくべきことを進めていきたい。

委員 優先すべき問題もあり、不安もでてくるが、住民もそれを考えるべきである。

■その他の意見

委員 介護保険などが人口ビジョンや今回の総合戦略の中でまったく触れていない。介護保険以外の取り組みで町としての取り組みはなにかないのか。実際には家で介護をしながら、子育てをしている人もいる。そういう人が休息をとれるよう負担を減らす施策はないのか。

事務局 総合戦略では誰もが活躍できる部分しか触れていない。町民からのアイデアからも高齢者に関することはなかったため、結果として、高齢者や介護に関する部分が上がっていない。在宅でボランティアができる人たちは人口構成のなかでは見えていないが、シルバー人材センターになるかと思う。具体的に今からどうするかというのは、専門のところを進めていくことになるかと思う。

委員 3世代で住んでいる人が多いほど、子どもとおばあちゃんの面倒を見ている人もいると思う。高齢者については、施設に入れるという話もあるが、施策の中で、なるべく在宅にしていくという話となると、今から懸念しておくべきことだと思う。家にいる子どもたちをお爺ちゃんおばあちゃんに見守ってもらうというのも地域の力になる。また、家の中にずっとこもりきりの高齢者もいるかと思う。そういう高齢者をバスに乗せて、コミュニティ施設等に連れて行ってもらって、交流してもらうなどそういう仕掛けも必要である。介護にならない高齢者を増やし

ていくことも重要である。

事務局 空き家を使ってコミュニティ施設を整備するなどして高齢者をはじめ、子供たちも集まれる場所を作ればいいと思う。サロンがあると思うが、それについては、地域で自主的に行ってほしいという考えもある。今のご意見は、福祉の方と検討することになるが、今回は、日程もないため、施策あるいは事業として追加できない可能性もある。

委員 今後も会議が年2回あるが、選挙権が18歳からとなることもあって、日曜日に開催するなどして、現役の学生もメンバーに入れたらどうか。その中で、なぜ若者が将来住みたくないのかも聞いてみたい。

事務局 確かに、若者にも話を聞かないといけないと思う。

■今後の予定について

1、庁議を経て11月中旬に意見公募を行う。

2、もっと白石町がよくなるように今後何かできるのではということで、フェイスブックを通じて情報共有等をしていきたい。

■会長（副町長）あいさつ

色々なご意見をお聞きして私たちも大変勉強になった。

4回にわたって、ご参加いただきありがとうございました。